

座長／各委員の見解

青森市除排雪対策検討会議

座長 櫛引 素夫（青森大学）

2025年9月25日

☆座長としての見解

一連の作業の結果・成果物

- **成果物：①会議資料②議事録③検討結果／各委員の見解／まとめ**
※「報告書」等の形ではない
- **第3回会合の対話を踏まえて最終的な取りまとめ**
⇒ **市長へ提出**
- **検討結果：**
 - ①**座長まとめ**
 - ②**各委員の見解／まとめ（今回の会合の発言も含む）**

与えられたミッション

- 1) 現状整理
- 2) 論点・課題整理
- 3) 解決手法の検討

全体の整理…3回の会合でできたこと

- (1) 課内・庁内の**情報の集約と整理**
- (2) 関連団体の**意見・情報集約**（新しい形も含む）の**端緒**づくり
- (3) 現状の**整理・検討作業**の端緒
⇒ **課題の輪郭**が浮かび上がった
- (4) それなりのボリュームの**会議資料**（=**情報の塊**）づくり
- (5) 次の冬に向けて「**新たに悩み、考える**」仕組み・組織づくりの端緒
- (6) 次の冬に向けて「**最低限、なすべきこと**」の整理

☆「一緒に語らい、悩む」場所・形づくりの試行

与えられたミッションへの対応

1) 現状整理

⇒ **端緒はできた**

2) 論点・課題整理

⇒ **端緒はできた**

3) 解決手法の検討

⇒ **糸口的一端は見えた**

◎ 業務改革・DX推進・市民や関係団体とのコミュニケーション向上

◎ 情報収集・発信手法の整理

☆ **次年度以降の予算・体制にどう反映されるか…ボールは市役所に**

「ミッションへの対応」をめぐる考察

◎ 除排雪をめぐる**今までの体制、意識が限界に**

⇒ 「**新たな悩み方**」から考える作業に（**作業の進め方、アウトプットの形**）

☆ 背景①**気候変動**：想定外の気象の推移

②**人口減少と高齢化**：市民の除排雪力低下／労働力不足

③**建設業界の構造的変化**：多業種・他業種参入、オペレーター流出
（除排雪の体制や人員が変化）

④**情報の集発信の限界**：ネット・SNS普及に対応できず

◎ 当初のミッション：「**技術的検討**」

⇒ 深掘りの結果、**構造的な課題整理**に（**画期的新技術の話題には届かず**）

⇒ 「**技術的な検討**」について…「**技術的**」という**言葉の定義の明確化**が必要
…**その上で、さらなる検討作業を**

☆一委員としての櫛引コメント

提起：「まず、すべきこと」

雪に殺されないためのムーブメント
その端緒としての除排雪検討

(1) 市民向け「雪ポータル」サイト構築＋SNS対応 ⇒ 会議資料の再編集

☆ 下記の営みによって市役所を改革する契機に

① 業務改革：庁内の情報や意識の流れを変える ⇒ まず市役所が変わる

② DX推進：どこでどうデジタル化を図るか

③ 市民と市役所・業界のコミュニケーション改善：

SNS対応等の（再）構築、ボランティアのマッチングなど

④ 市と関係団体とのコミュニケーション向上：

理事者／市役所／各部局／外部組織などの関係性を再構築
（市長が率先して実行を）

☆ 実際に除排雪している業者／オペレーターや市民が必要としている情報は？

提起：「次にすべきこと」

雪に殺されないためのムーブメント
その端緒としての除排雪検討

(2) 各種の検討

- ・「1年中、雪について考える」仕組み／勉強会
 - …「雪水比」などのデータ研究・活用
 - …市役所と庁外（**大学・学校・企業・市民など**）を結ぶ
 - …国・他県の**防災研究機関**との連携（まず個人レベルでつながっては？）
- ・民間の「雪」研究団体との（再）連携
 - …過去に活動していた団体の**足跡を確認**／民間とのつながり直し
- ・市の施策と「雪」との関連性の検討
 - …例えば「**脱炭素**」と除排雪（の**重機**）はどう関連？
- ・他の豪雪地域・都市の取り組みの検討と学習、連携
- ・「頑張った人が報われる」「市役所自体が元気になる」仕組み・工夫

個人的試案：「雪総合対策ラボ」の開設

- ◎ 中長期的（5～10年）に少しずつ進める
- ◎ 暫定的に5セクション（テーマ）
 - ① 気象要素
 - ② 地形的・都市構造的／土地利用的要素
 - ③ 除排雪作業に関わる要素
 - ④ 社会的・人間的要素
 - ⑤ ネット・SNSパトロール
- ◎ これらの視点／カテゴリーの情報や要素を抽出・入手し、分析／検討
- ◎ 緊急性に応じて、他部署やステークホルダーと共有、対策を検討・実行
- ◎ その入り口になり得る試行が「雪ポータル」？
- ☆ 「世界一の豪雪都市」のブランド化／雪文化の再構築

☆ 一連の対話、他の委員のコメントを踏まえて

分析・提言・所見

☆市に「誰もが認める除排雪のプロ」を！

⇒ 作業のこれまでの流れ、今後を見通したノウハウ、持続的な判断が必要

○昨冬の課題の検証と改善策を

⇒ 「**あと4カ月**」でできることは！？

○近年は住宅地で雪を寄せるスペースが減少

⇒ **排雪が前提に**

○ // **多様な業種**の事業者が参入

⇒ 重機の**習熟度に差異**、**効率化とオペレーター育成**が課題

○**国・県・市が連携**した除排雪体制を

分析・提言・所見

- 「現場を知り情報を持っている、**あらゆる人**」とのコミュニケーション
⇒ **市民・業者・メディア・議員**等々
- 青森市の**地形や特性**、**雪をめぐる制度**を**理解してもらおう**取り組み
- 県内外の豪雪都市を**積極的に参考**に（「**世界一の豪雪都市**」ブランド）
- ☆ **除排雪時のルール**の**厳守**。**法令**についても解説、案内
- ☆ **頑張った人**が報われる仕組み。「**見えづらい努力**」の評価、報酬
- 例えば「**雪捨て場・雪寄せ場と空き家問題のリンク**」
…協力的な地域と**モデル的連携**を
- 除排雪事業者の**責任と義務、権限**（独自・自発的判断）の**整理**

第3回会合・委員発言メモ

- 市内のどこでどれだけ降っているかを捉える…物差しを差しているだけでも観測可…市民の意識の共有ができる。
- 長期的にみると、冬は温暖化…12月から2月の積雪の過去20年の平均は平年並みか多い傾向。ただ、年々の変動も大きい。長期予報などで傾向の把握が必要。
- 大雪をもたらす要因の一つは日本海の海面水温…雪の元となる水蒸気が供給されやすい。上空に強い寒気が流れ込んだり低気圧通過、冬型の気圧配置の強まりなどで大雪になる。強い寒気が入った時に、短期間にどんと降ることが今後も考えられる。きのうからきょうにかけての大雨も温暖化が原因のひとつといわれている。

第3回会合・委員発言メモ

- 2005年度～2024年度のデータで20cm以上の大雪日数は2024年度がトップ。雪の日数は変わらなくても大雪になる日数が増えている。その時々で違うが、週間レベルの流れで上空の寒気の様子をみて、つねづね意識を持って気象データを見ていく必要性。
- 雪水比…冬季温暖化してくると重い雪が増える。降った後、天気がよくなると溶けて、また雪が降って…除排雪が大変に。除雪・排雪のタイミングを「今まで通り」ではなくその都度、考えていく必要。

第3回会合・委員発言メモ

- 去年の12月は明け方に雪が降った。過去20年の平均に比べて3倍の降雪量。その傾向を踏まえた上で短期降雪量の予測を見ながら、何時頃から雪が増えていくのか、明け方から朝に増えるのか、などのパターンにフレキシブルに対応していった。
- 除排雪の体制づくりが難しいかもしれないが…予報が外れることもあるが、情報の活用が大切。
- 雪水比…重い雪が増えていることを考えると、道路除雪に限らず、屋根の雪下ろしが大切。同じ何十センチでも、重い雪は早めの雪下ろしが必要。市内の屋根雪の危険度マップなどがあれば。

第3回会合・委員発言メモ

- 業務を行う立場として2点。

①建設業の構造的変化。まさにその通り。除排雪の体制、人員が変化。青森市街地は多様な地形。生活道路が対象、関係者が多い。情報共有、人材育成が大切。

②課題…住宅地の雪寄せスペースが足りない。排雪をどうスムーズにするか。「雪捨て場の確保と空き家問題のリンク」などを検討したり、意見を出し合って、課題解決に向かうことが必要。

第3回会合・委員発言メモ

- 関係機関との連携…良かったこと。ボランティア、屋根の雪下ろし事業。市教委が（不登校対策）ボランティアに力。社教のボランティアと手を結ぶことができた。地区社教の担当者の情報提供で。まだ回数は少ないが伸びている。感謝されて、自己肯定感が向上する。地区社協も、中学生と手を結ぶことで効率的な作業ができた。声を上げられない高齢者がいるということを把握して。手をつなぐことを考えて。
- 雪捨て場と空き家…更地にすると税金が高くなる。雪捨て場化したら減免とか。

第3回会合・委員発言メモ

- オペレーターに関しては5年前から「均質化」「訓練」によってよくなってきているが、まだまだ。市がかかわって、もっと進めてほしい
- ボランティア事業は市教委とのタイアップ。地区社協も屋根の雪下ろしなどもやっている。若い人はそれなりにいるが、地区によっては高齢者が大半。町会連合会としても、市と情報共有しながら意見調整して、業者と調整会議を実施しているが、なかなかうまく進まない…昨冬のうまくいかなかった要因の分析結果が地区にフィードバックされてこない。
- 課題が残った対策を今後、どうしていくか、情報発信。気象情報も含めて、市の分析結果を各地区に情報をおろしてもらっていく場が必要。秋田も豪雪。対策取っているが、提言ができればいいが、できること、できないこと、短期・中期・長期をどうするのか。自前で消雪パイプをつくって側溝に流して、という例も。その水道水の料金、冬期間は減免してもらえれば、など。

メモ (第1回会合資料)



あいさつに代えて

青森市除排雪検討会議
第1回会合
2025年5月8日

青森大学社会学部 櫛引 素夫

4カ月／3回の会合で
何がどこまでできるか
何をどこまでするべきか…？

時間

すぐできること、
しなければいけないこと
(この検討会議の責務)

4カ月

2年？ 3年？

長期的に実現すべきこと、
時間をかけてじっくり進めるべきこと
(この検討会議はどう関与？)

5年？ 10年？

空間

複雑さ

若者たちの未来

青森市の
歴史・構造・風土に
由来する課題

行政としての
政策的課題

豪雪白書との
関係性？
この会議の役割？

高齢化
・単身化

空き家

賃金

労働力
不足

ネット
・SNS普及

IT・AIの
活用

日本全体の課題

除排雪の
技術的検討

時間の経過に伴う自体の変化（深刻化・複雑化）

ポイント（新幹線研究、平成の大合併取材から実感）

- 「目的」と「手段」の識別
- 「問題の当事者は誰か」の確認 + 「問題を**解決できる**当事者は誰か」の確認
- 「好き嫌い」と「善し悪し」の区別
- 「できること」、「できないこと」、「できるだけしてはいけないこと」の識別と確認
- 普遍性と個別性…積雪寒冷地域の共通事情、青森市の特殊事情

※持続可能性、用語の解釈の確認、解決と克服の違いなどにも留意

※新幹線開業は「地域の不具合発見器」…縦割り、輪切り、ミバカの壁、…等々

個人的な重点ポイント

☆ 青森に暮らす以上は避けて通れない課題

- 特に若い人たちに顔向けできる作業・議論を…！
(ゼミの学生が卒業研究テーマに、本日も同席。授業でも教材に)
- 雪対策は最大の人口流出対策？
(全国の県庁所在地ワースト)
- 自分たちは変われるか？…まず「悩み方」や「会議の作法」を変えたい
(人を変えるには自分から)

助け合い、知恵を出し合って生き延びるか、
それとも…